

集落が一丸となって取り組む 地域づくり活動

下唐原東区地域おこし会

コミュニケーションづくりが 地域をつなぐ

「集落を単位とした地域づくり」を方針として掲げ、集落の行事にみんなで取り組み、「コミュニケーションづくり」を重点に掲げ、平成23年、地域づくり活動団体として認定されました。

地域活動の歴史は長く、平成7年から始めた活動は今年度で19年目を迎えます。現在会員数は50名で、61歳以上が「睦会」（代表、宮本工さん）、60歳以下が「やっちゃる会」（代表、田井浩二さん）と組織をつくり、それぞれ役割分担をしながら、活動を行っています。

地域づくり活動を始めたきっかけについて、「四季を通して、田植えや餅つき、どんど焼きなどの年中行事を地域の子どもたちに体験させてやりたかったんです。よその地域でも行っていることなので、できるんじゃないかと思いました」と語る宮本さん。地区内に花壇を作ることから始まり、今では、自治会、保全隊も一緒になって協力し、年4回、用水路の整備や道路の掃除などの環境美化活動や、空家の管理などの危機管理活動



地域の笑顔 親・子・孫につなぐ

集落全体で取り組む1年間の活動のメインイベントとして、どんど焼きを行っています。今年も2月10日に行いました。

まず、準備として、2月3日にどんど焼きに使う竹切りや木材の搬入を行いました。そして、2月9日は、当日に振舞われるぜんざいにいれるもちを準備しました。この日は10名以上の地域の方が参加し、毎年の恒例行事ということもあり、あ・うんの呼吸で作業が進み、200個のもちがあつという間にでき上がりました。

そして迎えた当日、朝から晴天に恵まれました。早朝から「やっちゃる会」のメンバーが中心となって見事なやぐらが完成し、それぞれの家から持ち寄ったお札や正月飾りをやぐらにつけました。

午後2時、地域の皆さんら100名以上が集まり、どんどこに一礼し、集落をあげて無病息災・五穀豊穡をお祈りしました。その後、

を行っています。また、社会奉仕活動、小学校児童の見守り活動、体験行事の実施など、毎月の役員会で相互の連携を確認しながら年間を通して多彩な活動を行っています。

ふるさとの資源を 子どもたちに伝えたい

子どもたちの体験行事の一環として、大平楽裏の畑10アールにさつまいもを栽培しています。毎年収穫の時期に大平保育所の園児を招待したり、さわやか市大平の「芋掘り会」のイベントに提供しています。この活動は地域の豊かな農作物を町内外に広く知ってもらいたいという思いで10年以上続いています。栽培は、6月の植え付けから始まり、11月の収穫までみんなで力を合わせて行っています。園長さんは園児から「お顔より大きな芋を掘ったよ」とか、「何個も繋がった芋にびっくりしたよ」という話を聞いて「地域おこし会の皆さんのおかげで本当に楽しい体験をさせてもらいました。お芋は給食やおやつの時間においしくいただいたあと、家へも持ち帰り、お芋掘りのお話を家族にしたそうです」と嬉しそうに話してくれました。

地元下唐原の地域づくり活動団体でもある「唐原子供神楽」が神を迎えるという「神迎^{かんむかい}」を元氣いっぱいに舞い、祭りを盛り上げました。そして、いよいよやぐらに火が入られ、天高く激しく燃え上がりました。

炎も落ち着くと、昨日準備した餅を竹の竿の先に吊るして焼いていきます。どんど焼きで焼いた餅を食べると1年間健康でいられるという言い伝えもあります。子どもたちは楽しそうに焼いてそのまま食べたり、ご婦人の皆さんが準備してくれたあたたかいぜんざいに入れて食べました。そこには、地域の人たちの一体感から生まれ、満面の笑顔がありました。

これからも まだまだやりますよ

このほか、地域おこし会では集会所で郷土史の学習会を開き、町の歴史を学ぶことを行っています。3月末には、その一環として、宗像大社や道の駅むなかたに視察にいけます。先進地を視察し、積極的に勉強することで、新しいアイデアが生まれ、地域おこし活動につなげて行くことができます。

今後の活動について宮本さんは「年度ごとにきつちり問題点を反省していく事で集落にも効果が出ています。これからは高齢化による集落機能の低下の問題をはじめ、地域活動の中で農産物を育てて加工品などを作り、少しずつ収益につなげていくことも視野に入れ、活動を発展させていきたいです」と語っていました。

地域づくり Close-up

